

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成 30年3月28日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	真世土 マウ
研究課題	エクアドル中南部における伝統的土器づくり					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	真世土 マウ	デザイン学部 准教授	陶磁器 デザイン		
	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究では古代中南米土器の分析をおこない、これらを日本の陶磁器技法によって再創造することで、中南米土器の文様や造形デザインを通して、中南米文化を紹介する。同時に、日本陶磁器の素材および技法を海外へ広めることを主な目的としている。また、本研究から生まれる陶磁器作品による展覧会の開催が、日本と他国との交流を深める機会になることも期待される。</p> <p>今年度は、エクアドル、アスアイ県クエンカ市にある米州民藝・伝統工芸センターCIDAP及びクエンカ大学の協力を頂き、クエンカ北東部60キロにあるハツンパンバ村で、インカ帝国時代から作り続けている独特な土器の研究調査ができた。先史時代から現代までの世界各地の土器作りにおける主要な技法の一つである叩き技法（Paddle and anvil technique）で、カニヤール県の伝統的土器づくり工程で使われる独特な叩き道具「ワクタナ」を分析し、研究成果を笠間日動美術館で開催された『古代文明への旅』展覧会にて発表した。</p>					

※ 次ページに続く



エクアドル、カニヤール県の伝統的土器づくり

研究実績
の概要



「ワクタナ」は、素材と形に特徴のある素焼きした凹凸の道具で、様々な土器の形をつくることができる。



笠間日動美術館での展示発表

<https://kasamanichidomuseum.wixsite.com/kodaibunmeiheno-tab>

日本とエクアドル外交関係樹立 100 周年を記念して開催される『古代文明への旅』展覧会中、本研究発表成果と市民向けのワークショップを企画した。

成果資料目録

なし